

令和3年度開催 名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会のアンケートのご質問に対する回答(令和4年3月現在)

	質問内容	本市からの回答
事業の意義について	現在のコンクリートの天守を補強修復することはできないのか？	<p>明治初期、全国の城が廃城されていく中、姫路城と名古屋城は日本の城郭の見本であるとして永久保存されることになりました。また、名古屋城は、戦災により天守や本丸御殿をはじめ焼失してしまいましたが、先人たちの努力により豊富な史資料が残されており、往時の姿に復元することが可能です。</p> <p>そのようなことから、平成30年6月に復元した本丸御殿や現存する隅櫓、門のほか、将来的には復元が可能なものは段階的に復元することで、名古屋城の象徴である本丸を江戸期の姿に再現し、特別史跡名古屋城跡の歴史や魅力を体験していただける場所としていくこととしております。</p> <p>一方で、戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、昭和34年に竣工して約60年が経過しており、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。</p> <p>このような問題を解決するため、耐震改修などにより現天守閣を延命させる方法もありますが、外観のみならず内部構造に至るまで往時の姿に忠実に復元することが可能であることから、本市としては、江戸期を再現する本丸の中心として木造天守を復元する方針としております。</p>
	耐震対策等の手当は、できないか？その方が天守台の石垣への負担は少ない様に思える。	
	写真資料の豊富なのにびっくりしました。せひ、活用して復元してほしい。	
会の運営について	図書館にあった「名古屋城天守閣木造復元市民向け説明会」のパンフレットをみて今回の説明会に参加した。1/22 1:30~3:30とし、講演者木村氏…となっていた。この2h木村氏の話だけのよう書き方であるが最初の司会のタイムスケジュールはこの内容が30分間のみとされていた。パンフレットの書き方はずいぶん違うので失望した。	<p>本説明は、市民の皆様にも名古屋城天守閣木造復元事業の進捗状況をお伝えし、ご理解を高めていただくものでございます。</p> <p>名古屋城天守閣木造復元事業について、今後も、分かりやすい情報発信に努めてまいります。</p>
	講演は名古屋城にまつわる文化財についての話しと期待して来たが、史跡の定義等一般的な話に終り、極めて残念。タイトルと内容をきちんと合わすべき。	
	このような説明会は寄附をした方々に連絡してほしい。	
	1人あたりの質問個数は時間との関係から限定した方がよいと感じました。	
	質問者の質問数が多すぎる。色々な人の話を聞くために「1人2点ほど」とした方がよいと思う	
	質疑応答をもっと充実させて欲しい。時間が足りない。担当者の説明が、長過ぎる。質問に適格に答えていない。質問について、もっと適格に答えて欲しい。	
	講演13:37~14:17 時間が短かった。もっとも時間が欲しかった。定期的にやって欲しい。又努力して欲しい。	
	市からの説明14:17~14:30 時間が短か過ぎる。もっとも区内での説明会があれば良いと思う	
	客席の質問をもう少し多めに時間をとってほしいです。	
	竹中工務店の話を聞きたかった。	
	要望→土日の開催を検討願います。(もっと多くの市民の参加が期待出来る)	
	・時系列で確認したい点があり、資料の年は「西暦」を()として併記してほしい。(平成29年度(2017))	
	・冊子P9「…崩壊する可能性のある天守台で支持しない基礎構造とする」→私は法律に慣れており、むづかしい文章の意味は分ります。ただし、「分かりにくい文章」のため質問がありました。分かりやすい文言にして下さい。	
	名古屋城に対する理解は深まりましたか:これは名古屋城そのものの事か?それとも復元に関する理解かどちらの事でしょうか?前者なら深まった、後者ならどちらでもない。	
	スライドの下部、文字が見えない。	
時間が無いのになぜ関係のない講演会を延々とやるのか 質疑の時間があまりにも短かい		
1. 「「まるはつちゅ〜ぶ」1ch」と手入力するのは結構手間がかかるので、市民向け説明会のWEBページにリンクを貼って容易にアクセスできるように改善願いたい。		
2. 説明の冒頭で所長が「参考資料冊子も用意している」と言われているが現在(1月19日11時)において上記WEBページに見つからない。動画公開と同時に冊子も見ることができるよう配慮願いたい。		

	質問内容	本市からの回答
スケジュール	進捗状況がもう少し、深く話してもらいたかった	文化庁からの指摘事項への回答に対して、令和3年6月に文化庁から頂いた所見や助言により、復元検討委員会には石垣保存方針や基礎構造、バリアフリーの方針などを反映した「解体と復元を一体とした全体計画」をある程度まとめることが必要であることがわかりました。
	・現在の作業の進捗状況はどれ程か。	全体計画を策定するためには一定の期間を要することとなり、復元検討委員会へ向けて、明らかとなった当面の必要な手順を踏まえて、令和4年度末までに有識者との合意形成のもと全体計画の策定をしたいと考えていますが、石垣等の保存を前提とした計画とする課題等もあることから、今年度実施している調査も含めて、必要な調査・検討を行い、全体計画を策定してまいりたいと考えています。
	完成時期・目標は？	全体計画が策定できれば、次のステップである復元検討委員会での議論に進むことが可能になると認識しており、復元検討委員会は一旦開始されれば、途中で中断することなく議論が進められると聞いております。
	計画は4年度いっぱいには完成させたい？→その後の着工目標は？	復元検討委員会が始まっていない現段階では、木造復元の議論に要する期間の見通しは得られず、今は全体計画の作成を当面の目標に有識者のご意見をいただきながら丁寧に進めることが不可欠であり、完成時期を申し上げる段階ではないと考えています。
整備方針について	最上階でも400名、もし放火などされたらどうするのでしょうか？	現在の法整備がされる前の歴史的な建築物に、建築基準法を適用させることは困難です。木造復元天守においては、建築基準法の適用を除外するため、建築基準法第3条第1項第4号に基づく特定行政庁の認定を受ける予定です。そのため、防火・避難・構造等についての安全性の確認をする必要があります。防火・避難については、その性能を確保するため、一般財団法人日本建築センターにおいて、防災性能評価を取得しました。また、構造の安全性についても、一般財団法人日本建築センターにおいて、構造評価を取得する予定です。
	防災対策が弱いのではないかと(地震・火災・避難ルート確保)	消防法につきましては、屋内消火栓設備、自動火災報知設備、非常放送設備、誘導灯などの必要な消防設備について基準通り設置するほか、スプリンクラー設備を追加設置します。ただし、避難器具については、天守の形状により設置が困難であるため、消防設備や警報設備、セキュリティを強化する避難誘導システムを構築することで、一般財団法人日本消防設備安全センターの消防設備システム評価制度により、避難器具を設置しなくても十分な防火安全性を有するとの評価を取得し、これにより消防法に適合させる計画です。
	火災対策は十分検討してほしい。(首里城の件もあり)	木造復元天守の防災計画の一つとして、火災の原因となる火源(ガス、燃料等の可燃物)は天守内に設けず、持ち込まない、持ち込ませない、という方針を徹底させる計画であり、また復元する天守にはガス設備の設置を予定していないことから、主たる出火原因は放火と考えていますが、それにも対応するための避難誘導システムを構築し、一般財団法人日本消防設備安全センターから、ソフト及びハード両面における有効な対策が講じられており火災等の発生時に有効に機能すると認められるとの評価書をいただいておりますので、木造天守においては、十分な防火安全性を有していると考えております。
	竹中工務店との契約は成立が持続するのでしょうか？	天守木造復元は、長い年月と戦災によって劣化した石垣や石垣の中にある現天守閣の基礎の取扱いなど様々な課題があり、工事契約に向けた仕様の確定が困難であることや、特別史跡内に大規模木造建築物である天守閣を復元する工事である為、最も優れた技術提案に依らなければ工事的な達成が困難であることなど、難しい課題をいくつもクリアしなければならない難工事であることから、名古屋城木造天守整備事業においては、民間事業者が持つノウハウを活用することでこれらの課題の解決が可能となる。技術提案・交渉方式を採用しました。
	再度計画、契約を直す必要がありませんか？	技術提案・交渉方式とは、技術提案を募集し、最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として、その者と価格や施工方法等を交渉し、契約の相手方を決定する方式です。その技術提案の募集(プロポーザル)では、事業を遂行するための取り組み体制、品質管理の工夫、事業費の縮減とともに提案された事業費内で品質を確保しながら実現する工夫、史実に忠実な復元に配慮しながら、木造天守を実現する工程、バリアフリーを含めたユニバーサルデザインや防災・避難計画の実現、構造計画の工夫、木材の調達・乾燥・加工、遺構の保護に配慮した解体と復元工事に際しての仮設計画、復元過程の公開や現天守閣の記憶を後世に伝える方策など、多岐にわたる提案された技術等を総合的に評価して優先交渉権者を選定しています。
復元許可が下りない理由に対して、市はどのような対策を考えているのか？	提案された内容の一部について見直しもありますが、事業を進めてきたことで明らかとなったプロポーザル実施時には想定できなかった事象に対応するために技術提案書の一部を見直すことが即座にプロポーザルの有効性を損なうものではないと認識しております。	
①文化庁の指導許可が下りない訳をもっとわかりやすく説明してほしい	また、スケジュールの遅れについても、事業を進めてきたことで初めて明確になる課題に対応するものであること、また、工事の技術的内容や実際の施工期間に大きな変化はないこと、優先交渉権者である竹中工務店と協議を進めながら慎重に検討を進め、事業費の上限を超えない等の確認・理解が得られていることから、プロポーザルの有効性は保たれると考えています。	
	現天守閣の現状変更許可申請に対する文化庁からの指摘事項に回答したところ、令和3年6月の文化庁の所見において、天守閣解体と木造天守復元を一体とした計画として審議していく必要があり、現状変更許可申請については、天守閣解体のみならず、木造天守復元についても一体としてその内容に加えるよう、見直しを図るのが適当であるとされました。	
	木造天守復元の現状変更許可申請には、文化庁の復元検討委員会での議論が不可欠ですが、その復元検討委員会での議論には、石垣保存方針や基礎構造、バリアフリーの方針などを反映した「解体と復元を一体とした全体計画」をある程度まとめることが必要であることがわかりました。	
	全体計画を策定するためには一定の期間を要することとなり、復元検討委員会へ向けて、明らかとなった当面の必要な手順を踏まえて、令和4年度末までに有識者との合意形成のもと全体計画の策定をしたいと考えていますが、石垣等の保存を前提とした計画とする課題等もあることから、今年度実施している調査も含めて、必要な調査・検討を行い、全体計画を策定してまいりたいと考えています。	
	全体計画が策定できれば、次のステップである復元検討委員会での議論に進むことが可能になると認識しており、復元検討委員会は一旦開始されれば、途中で中断することなく議論が進められると聞いております。	

	質問内容	本市からの回答
整備方針について	基礎構造分けるなら復元とは言えないのでは。	木造天守は、学術的な調査研究を尽くしてもわからないために推測で復元するのではなく、先人たちの努力により残された豊富な史資料から、史実に忠実な復元原案を明らかにしたうえで、現代に再現するのに必要な配慮をほどこして復元するというものであります。 文化庁による「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」における、復元なのか復元的整備なのかの判断においては、この点が決定的に重要であると考えられるため、木造天守は復元であると考えています。 その上で、基礎構造につきましては、 ・文化庁が定める「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」を遵守する ・江戸期からの姿を残す文化財である天守台本来の遺構には新たに手を加えないことを原則とし、その上で可能な限り史実に忠実な復元を行う ・熊本地震での熊本城の被災状況を鑑み、人命の安全確保を第一とし、木造天守は大地震時に崩壊する可能性のある天守台で支持しない基礎構造とするといった考え方を踏まえて検討をしております。
その他	名古屋城自体も大切に好きですが、名古屋城主や姫様などの歴史も義直、宗春だけでなく、生涯学習センターなどで、講座を開いてもらいたいです。広報なごやに少しずつコーナーを作ってもらえると嬉しいです。	名古屋城や尾張藩の歴史、文化などにつきましても、城内の催事や講座などのご紹介や情報発信に努めてまいりたいと考えています。
	搦手馬出の復元いつまでかかっているのでしょうか。	本丸搦手馬出周辺石垣は平成16年度から解体を行っていますが、解体と並行して一つ一つの石の配置や劣化状況、背面の構造等、文化財としての調査検討を丁寧に進めてきました。現在、積み直しに係る基本計画を策定しており、令和4年度より積み直しに着手する予定です。
	名古屋城天守閣木造復元を心待ちにしています。今回の説明会では多門櫓や馬出などの復元もあると知りました。天主閣復元と同時進行になるのでしょうか。	本丸の整備基本構想では、近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現することを基本理念としており、現存する石垣等の遺構や建造物等については、適切な維持管理と修復整備により確実に後世へ継承し、また、明治以降の改変や戦災等によって失われた石垣、土塁等の遺構、建造物等については、遺された史資料に基づき、それぞれの特徴を伝えられる姿で復元していくこととしております。 今後は、将来的な方向性を示したこの基本構想を前提に、一つ一つ丁寧な調査・研究のもと、より具体的な計画としてその時期等についても検討をしていくこととなります。
	復元された階段が見て登れる施設「ステップ名古屋」の一般公開が現在中止されているのはなぜでしょうか。	階段体験館「ステップなごや」につきましては、木造天守を体感できることなど、ご見学いただいた方からご好評をいただいていることもあり、現在、出来るだけ早期の開館に向けて、日時や新型コロナウイルス感染症対策などの検討をさせていただいておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。
	機運醸成の一環として開館したステップ名古屋が現在閉館されているのはどうしてですか？	
	名古屋市は名古屋城天守閣と閣の字をつけ呼ばれていますが閣をつけた呼び方は明治以降にいわれた言葉で城の名称にはふさわしくないと認めます『金城温古録』には一切閣の字は使われていません。一考を要します。	木造復元の天守の名称については、特に「天守」と呼ぶか「天守閣」と呼ぶか決まっておりますが、江戸期に建てられたオリジナルの建造物を「天守」と呼び、戦後に再建された鉄骨鉄筋コンクリート造の建造物を「天守閣」と呼ぶことと整理をしており、また、本事業は江戸期に建てられたオリジナルの建造物に忠実な復元を目指すことから、木造復元するものも「天守」と呼ぶことが多いです。なお、建築史等を専門とする有識者による書物等を見ても、ご指摘と同様に、現在、一般的に「天守閣」と呼ばれることが多いが、それは、江戸時代後期に使われ出したものであり、学術用語としては「天守」である、といった記述も見られます。
バリアフリーについて	バリアフリーについて、中途半端なバリアフリーは残念なこと。本物に近づけてほしい。エレベーターが見えるなら今のままでもOKでは？ 忠実な再現は、城という建物である以上、せめにくい造りになっておりバリアフリーにこだわるあまり、その意味が薄れることを心配します。犬山城、松本城の急な階段こそ大きな意義があると思う。建物に手を加えるのではなく、装着器具の開発やバーチャルの活用などで是非進めてほしい。 バリアフリーにこだわるあまり、本来の城の姿から遠のくことをぎくします。天守とは本来容易に昇れないものであり、本当に全ての人が入れるようバリアフリーにすることがいいことなのか疑問です。補助具をそうてんして昇るぐらいならよいが、わざわざ本来ないような設備を建築することには反対です。バーチャルを活用すればわざわざ昇らなくても十分体感できるのでは。全ての人が昇ること事態おかしいのでは。 本来の天守閣復元になるようバリアフリー、防火対策にこだわりすぎぬよう最小限の付加による建造を望みます。 今後40～50年後に国宝となるにはエレベーターは無い方が良いのでは。	文化庁による「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」では、復元における配慮事項として、歴史的建造物の構造及び設置後の管理の観点から、防災上の安全性を確保することとされており、復元天守においても、防災上の安全性への配慮など必要とされる機能を確保した上で復元を行うこととしております。 また、現代に再現する歴史的建造物に、バリアフリーは必須であり、障害のある方もない方も共に文化財を快適に楽しんでいたことは重要であると考えております。 バリアフリーについては、令和2年のバリアフリー法の改正に際しても、歴史的建造物を再現する場合におけるバリアフリー整備の在り方について、高齢者・障害者等の参画のもと検討が行われるよう必要な措置をとることが求められています。 文化庁の基準及びバリアフリー法改正の趣旨をふまえ、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を目指してまいります。
文化財としてのあり方について	・天守閣の石垣、地下の基礎の加藤清正以外の貢献は、大きく評価しなればならないのだろうか？	天守台の石垣は加藤清正が担当したと言われておりますが、石垣の隅角石には、実際に普請に参加したと見られる加藤清正の部下の名前が掘り込まれています。天守台石垣普請にあたっては、担当大名以外にも、様々な人が様々な関わり方をしています。それを具体的に明らかにすることが重要だと考えます。

	質問内容	本市からの回答
目標・運営 について	ふり出しに房ってしまった計画は白紙か再度検討しなおす。市民意見を聴取するかすべきではないですか。	平成28年5月に2万人アンケートを実施させていただき、市民の皆様の意見も踏まえ木造復元事業を遂行してまいりました。
	市民の要望の賛否はどうなっている 最近のアンケートの詳細をお聞きたい	また、金城温古録や昭和実測図が残されている名古屋城は木造復元ができる唯一といっていいお城だと考えており、天守の基本構想において、文化庁の定める「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」に従い、現天守閣の存続と木造復元について、どちらが史跡の理解・活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかと言う観点から比較し、天守の整備方針は木造復元とすると結論付け、有識者会議でも了承いただいております。
	時間がかかっても、良いのであせらず有識者、国等充分検討し、全国にほこる世界にほこる文化遺産として復元事業を推進して下さい。もちろん、市民に対して復元事業の経過を説明するよう望みます。	
	4. 市民に必要な正確な合理的な情報を与えないで進めようとする悪とゆ着する越後屋?!を見る。努力する方向をシフトしてすこしは良かったと言われたらどうか。	
	理解活動にしっかり時間をかけてほしい。	
	もっと復元をアピールする声を発信してほしいです。	本説明は、市民の皆様にも名古屋城天守閣木造復元事業の進捗状況をお伝えし、ご理解を高めていただくものがございます。 名古屋城天守閣木造復元事業について、今後も、分かりやすい情報発信に努めてまいります。
	少しでも早くできることを願っています。私は完成は見届けられないと思うので、もっとわかりやすく復元状況を伝えていってほしいです。	
	2. どのような形状どのような工法、いつ、いくらを示し民意を問うが順。まっくらやみで支援しろというのか。	
	天守復元の機運を高めるためにも木造天守の見所を分かりやすく表示すべき。復元される天守がどんな建物か知らない人もいると思う。	
	・数年前の説明会では収支計画をのせていました。コロナ禍で2年たち、入場者数がどうなっているのか、改めて計算して示してください。工事費と維持管理で年間いくらかかるのか。	
	・木造復元に税金投入しないという説明だったと思いますが、現在でも変わりませんか？	事業費につきましては、市債、一般会計借入金、寄附金等を財源としており、木造天守復元後の入場料収入で賄うという考えに変わりはありません。収支計画につきましては、新たな竣工期限が定まり次第、改めて算出してまいります。
	3. 説明する項目に黄色いタスクを当て下げていって全てNOと言われ未完了で1分ですむ。それをさももったいぶって抽象的に流し、費用と使途と、その自己反省もついているべき内容allナッシング、人間らしい人に寄り添うに欠けている。固執—見苦しい—生きていくうちに出来ん…誰が支払う?…	
木造復元に要する経費は全て市債で生み出されているのでしょうか。		